篁

TAKAMURA
2006/No.17
会報

特集その1 卒業生は今 ……2・3
特集その2 文京まちあるき ～竹早高校あたり～ ……4～6
同窓会へのよびかけ ……1
篁会会長・校長挨拶 ……7
篁基金・ホームページ ……8
なつかしの先生 ……9
学校の活動報告 ……10・11
関西・湘南篁会だより ……12・13
竹早エコー ……14～16
竹早山荘レポート ……17
総会・理事会報告 ……18～20
お知らせ・訃報・編集後記 ……21

東京府立第二高等女学校同窓会
東京都立竹早高等学校同窓会

復刻古地図▶
(株)人文社・小石川絵図(安政4年、1857年)

①「竹早」と「同心町」
②同潤会大塚女子アパートメント
③銅御殿(旧磯野家住宅)
④徳川慶喜終焉の地
⑤小石川蝸牛庵(幸田露伴旧宅)跡

会報編集委員

委員長	土田　善則（15回生）		
委　員	関　文隆（10回生）	初宿　信子（15回生）	
	黒瀬　忠生（11回生）	市川　加代子（15回生）	
	小杉　義信（11回生）	鈴木　茂美（15回生）	
	市瀬　勝信（13回生）	川島　己代（15回生）	
	浜野　輝夫（13回生）	甲神　嵒（16回生）	
	背戸　民恵（13回生）	金澤　俊男（16回生）	
	村瀬　共栄（13回生）	常光　欽一郎（16回生）	
	山内　亨（14回生）	荻野　悦子（16回生）	
	桜岡　元（14回生）	鎌田　芳樹（17回生）	
	茂木　伸太郎（14回生）	原　嘉昭（17回生）	
	長谷川万里子（14回生）	松島　美弓（17回生）	
	倉石　義郎（15回生）	村川　儲子（17回生）	
	牧野　孝夫（15回生）	矢代　文子（17回生）	

篁会報　2006年（平成18年）17号

発行日　2006年4月23日
発　行　篁会
東京府立第二高等女学校同窓会
東京都立竹早高等学校同窓会
〒112-0002
東京都文京区小石川4-2-1
東京都立竹早高等学校内
http://takamurakai.web.infoseek.co.jp
編　集　篁会　会報編集委員会
印　刷　株式会社　博秀工芸

日時

平成18年 6月 11日（日）

受付開始	11：00
総　　会	12：00〜12：30
懇 親 会	12：30〜15：00

平成18年度 篁会総会 のご案内

会場

京王プラザホテル

総会・懇親会

4階
『花＊Hana』

会費

8,000円
（平成15〜17年卒は2,000円
平成18年卒は無料）

●ご出席の方は、同封の葉書で5月20日までにお申し込みください。

●会費は、当日受付でお支払いください。

■今回　幹事

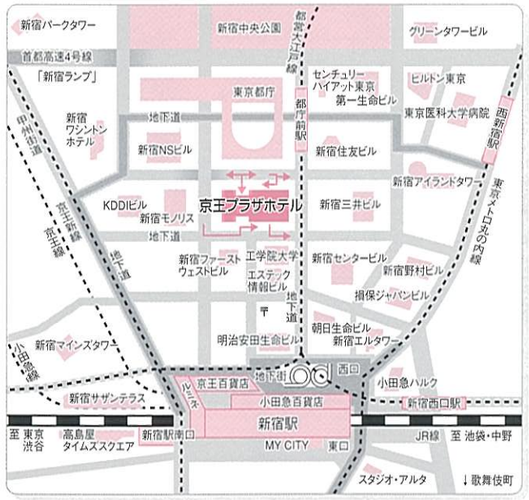
高校16回生（昭和39年卒業）
高校27回生（昭和50年卒業）
高校37回生（昭和60年卒業）
高校57回生（平成17年卒業）

■次回　幹事

高校17回生（昭和40年卒業）
高校28回生（昭和51年卒業）
高校38回生（昭和61年卒業）
高校58回生（平成18年卒業）

交通案内

京王プラザホテル
〒160-8330　東京都新宿区西新宿2－2－1
TEL. 03－3344－0111



●JR・私鉄・地下鉄「新宿」駅西口下車徒歩5分

●都営大江戸線「都庁前」駅B1出口すぐ

●お車では首都高速4号線「新宿ランプ」が便利です。

懇親会は、同期会・クラス会・クラブOB会の場としても、ご活用いただけます。
右記へご連絡ください。
グループ席を準備いたします。

〈お問い合わせ先〉
池内和彦　03－3983－3447
甲神　嵒　0296－72－2016

〜同窓会に参加しませんか〜

高校16回生総会担当幹事

固有名詞が出なくなったり、老眼鏡を探すようになると、あらためて年齢を感じ、ふと、わが人生を振り返ることがあります。そんな時、脳裏に浮かぶのは楽しく過ごした青春時代のことであり、若さをぶつけ競いあった友の顔です。特に、学校生活の中でも青年期の真っ只中にあった高校生活は思い出深く、印象的です。

今の自分が形成される過程の中で、一番影響を受けた高校時代。今、そしてこれからも輝く自分であるために、自分の原点を見つめ直すいいチャンスが同窓会だと思います。そこには同じ学び舎で過ごし、楽しい思いも悔しい思いも一緒に味わった本当の友がいます。長所も欠点も知っていてくれる先生がいます。

普段は社会、地域、家庭の中心的な存在として、一所懸命がんばっている皆さん。同窓会では堅い殻やベールを脱ぎ、高校時代のただの「○○さん」「○○君」に戻って、昔話に花を咲かせようではありませんか。

卒業年度にこだわらず、誘い合ってたくさんの同窓生が集まってくれることを願い、幹事一同準備に精を出しているところです。

懐かしく楽しかったひととき

〜昨年の同窓会に出席して〜

笹野　澄　高校4回生（昭和27年卒）

いつもあまり熱心に出席する方ではなかったのですが、昨年の同窓会のお誘いに「平家物語」についての講演があるとのことでしたので、是非お聞きしたいと思い出席しました。期待にたがわず素晴らしい内容でした。講師の松尾さんと同期の皆様はどんなに晴れがましいお気持ちだったことでしょう。

懇親会に移って、以前に会報の編集をやっていらした方と同じテーブルになり、お話することができました。送られてくる会報をただ楽しく読んでいただけでしたが、同窓会に出席したお陰で、少しは会報委員の皆様のご苦労を知ることができました。特に、昨年の特集は竹早の今昔を知ることができてよかったと思います。若い方達の時代ですが、まだまだ、高女や高校初期の私達のことも頭のすみにおいて、催しなどの企画をしていただけると嬉しいです。

会の最後に、高女と高校の校歌を皆様で歌いました。いくつになっても友と校歌を歌うとあの頃に戻って、いろいろなことが思い出されて感慨深いものがありました。「ヒマラヤ杉に・・・」の歌詞の通りの会報の表紙も懐かしかったです。化学の中邨先生が、「何か困ったことがあったら、このヒマラヤ杉に抱きつきに来るとよいでしょう」とおっしゃったことも思い出されました。高女の校歌はとても意味深い歌詞なのですが、知っている方も少なくなっていますので、幹事学年のリーダーさんが一緒に歌ってくださいました。同窓会でいつまでも、高女の「みいつかしこき・・・」が聞かれることを願っています。

特集｜その1

卒業生は今

竹早は百有余年の歴史を持ち、たくさんの魅力ある人材を輩出しています。今回はそれぞれ素晴らしい仕事、活動をしている4人の方の登場です。

小さな懸橋

大河原　敏子　高校16回生（昭和39年卒）

今回、私が携わっている中国語の仕事に関し、何か一筆を、との依頼を受け困ってしまいました。一応国土交通省の通訳ガイド免許を所持しているとはいえ、中国の要人の通訳とか、本の翻訳とか、皆さんにお伝えできるような華やかな活動をしているわけではありません。私の通訳相手は中国から来たばかりの小中学生です。

1994年、夫の七年半にわたる転勤を終え私達はシンガポールから帰国しました。彼の地は人口の75%が華人です。現地の人をもっと知ろうと、私はシンガポール大学で三年程中国語を学びました。A little language goes a long way.（チョットの言葉が世界を広げる）を身をもって実践し楽しい生活がおくれました。

帰国後、私を待っていたかのように区で中国語のできる人を探していました。中国から来たばかりで一言も日本語の解せない児童生徒のいる小中学校に赴き日本語の指導、及び先生との間の通訳が仕事です。中国語を生かしたいと思っていた私にぴったりでした。

彼らは授業中にただじっと座っているのがかなりのストレスらしく、別室で行う日本語指導時には、解き放たれたように中国語でよくしゃべります。2・3ヶ月たつと日本語がポツリポツリと出てきます。が、指導期間である3〜6ヶ月ではもちろん充分ではありません。その後を心配しながらも、一日も早く日本の生活に適応し、楽しい学校生活が送れるように願って彼等と別れます。人と人、国と国とのつながりなどは外交という大きな懸橋から、民間での懸橋とさまざまですが、彼らが将来日中友好の懸橋になれたら、私にとってこの上ない喜びです。

私も又若い彼等からエネルギーをもらいながら、辞書を片手に、"活到老学到老"（学問は死ぬまでのもので、これで終わりという事はない）の精神で人生80年を過ごしたいと願っています。それが日中の小さな懸橋となることを願って。

（中国語通訳ガイド）

写真と私

村松　徹　高校16回生（昭和39年卒）

私が写真と出会ったのは、小学2・3年頃である。写真を趣味にしていた父から子供用のカメラをプレゼントされた事から始まる。私自身興味があったのですぐに友人や風景を撮りまくった。しかしフィルム現像その他の作業は父任せだった。中学生になった頃現像や引き伸ばしも写真の一環であるから全部自分で処理することを父から示唆され、以後見よう見まねでやった。最初は随分失敗もしたが高校生の頃には、そこそこ一人前に撮影現像伸ばしが出来るようになった。竹早高校写真部一員として竹早祭にポートレート写真のパネル張りを展示した。

大学受験に際してはながく親しんで来た写真で飯が食えればと考え日大芸術学部写真学科に入学。高校時代とは異なり懸命に勉強、4年間の写真づけの後昭和45年2月1日に東京国立博物館写真室員として任官した。仕事内容は館所蔵の全作品の資料を撮る事である。当然芸術写真と資料写真は異質であり、資料写真は客観的で一切手を加えずあるがままに写すのである。とはいえこのあるがままにと言うのが曲者、たとえば釉薬でピカピカ光る陶磁器や鏡の様に光る漆工作品又刀身等は如何なる角度から光を当てても目玉のようにライトが映り込んでしまう。それを最小限に抑えしかも作品自体を最も美しく撮影せねばならぬ点である。だが撮影立あいの諸先生方と撮影のあいまに和やかに談笑できるのは楽しい。

日本や東洋を代表する最高級の美術品である国宝、重要文化財を撮影する時こそまさに至福の時である。写真とともに歩いてきたいままでの道程に悔いはなく今後も当分はこの仕事を続けてゆく所存である。

（東京国立博物館映像作製室室長）

ちょっと身勝手な恨み節

斉藤　康一　高校5回生（昭和28年卒）

結婚式の招待状がくる。とはいってもこの頃は再婚か再々婚。または友人の子供達。普段御無沙汰なのにな、と思いながら「出席」の返事を出す。式の数日前電話が入る。「2・3枚撮ってくれる?」。この2・3枚にカッとくる。行く気も失せるが出席といってしまったことからと渋々カメラ一式持参。一生懸命笑顔で終始撮りまくる。これもプロの悲しい習性ともいえる。お祝いをし、写真を撮り。アルバム迄も作り、全く割りが合わない。先方が2・3枚というのだから、ハイハイと2・3回シャッターを押し、ハイヨと渡せるくらいの神経を持ち合わせていたら、どんなに楽だろう。言う迄もなく先方には悪気など全くなく「一部始終」とは言いにくいから遠慮しているのは百も承知。それにしても2・3枚など中途半端な言い方は、電車が無くなり遠い道のり車で送り、家のちょっと手前の幹線で「ここでいいや」と言われるのと同じ様なもの。送られた当人は家の前まで送ってもらっちゃ悪いと思うのだろうが、送る方は、送る以上は最後迄と思って当たり前、中途半端なことなら始めから送ってもらうな。

以前はクラス会やパーティーによくカメラを持っていった。懐かしさや記念にとパチパチやる。僕とすればメモのつもりなのに「写真をくれない」と恨まれる。画家がスケッチをしたらそれをくれと言う人いるかな。だがカメラを持っていかないと何となく淋しいし、皮肉なもので写しておきたい人に会ったりして、悔やまれるものだ。友人の出版パーティーなどでカメラを持っていかないと当人が恨めしそうな顔をする。僕も内心借りを作ってしまったような気分になるのだから変なものだ。

プロの写真家と知った上で、カメラを渡され「これで私を撮って」と言われることもある。この頃は老眼もひどくなり慣れないカメラは使えない。フィルムも何が入っているかも解らない。もしピンボケになったり、写っていなかったら「プロのくせに」と笑いものにされてしまうのだから、たまったものでない。

（（社）日本写真家協会常務理事）

テレビは人に役立ちます

内多　勝康　高校34回生（昭和57年卒）

昭和57年に竹早高校を卒業した私は、NHKに入局して丸20年が経ちました。もともとは人前で話すことが苦手だったのでディレクター希望だったんですが、採用はなんと「アナウンサー」。運命とは、ほんとに分からないものですね。

テレビの最大の武器は、実にたくさんの人に見ていただけることです。たとえ視聴率が1%でも、単純計算で120万人の人にメッセージを伝えることができるわけです。これは凄いことですね。ですから、その波紋も思いがけず大きくなることがあります。

7年前に自閉症の男性を取材した時のこと（アナウンサーでも取材するんですよ）。その人が川崎市で立派に公務員として働いている姿を放送したところ、「一体どうすれば、あんなに笑顔で暮らせるのか?」自閉症の子供を持つ親たちから驚きの反響が殺到しました。将来を悲観して日々暮らしていた家族にとって、同じような境遇でありながら地域の中で自立へのハードルをクリアしてきたその男性の姿は、私が予想した以上にインパクトの強いものだったのです。

先日、その男性について書かれた本の出版記念パーティに出席してきました。会場には全国各地から自閉症の人やその家族など130人を超える人が駆けつけ、「おかげで勇気づけられた」「私も子供の自立のために頑張っている」と、感謝の気持ちを涙ながらに伝えていました。

そしてその会場で私は、その男性のお母さんから、放送に携わるものにとって最高の言葉をいただきました。「内多さんがテレビで放送してくれなかったら、こんなに感動の輪が広がることはなかった」そんな時、私は心の中で密かにガッツポーズです。

最近はNHKも前途多難ですが、そんなささやかな自己満足のために今日もファイト!　（NHKアナウンサー）

特集｜その2

文京まちあるき ～竹早高校あたり～

文京区は史跡に富み緑深い庭園も多く、まち歩きに最適の地域です。私達が青春のひとときを過ごした竹早高校あたりにも訪ねてみたい場所がいくつかあります。先輩がたには当時を思い出し懐かしんでいただき、若い人達には新しい発見をしてもらえればと思います。

①「竹早」と「同心町」

昭和23年新制高校発足の時の校名は東京都立第二女子高等学校でした。男子入学に伴い2年後に新しい校名を決める時、生徒側の意見も聞いてアンケートの結果一番多かった「竹早」に決まったそうです。

江戸時代このあたりは幕府簞笥玉薬（武具弾薬）同心が住んでいて簞笥（たんす）町と呼ばれていました。明治2年に新町名にする時にこの「簞」の字を分解して竹早にしたとも、また昔は竹の多い土地であったからともいわれています。春日通りを隔てた向かい側は、同心町と称されていました。幕府先手（さきて）組の同心の屋敷地だったからです。

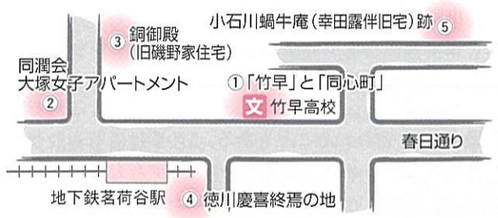
先手組は若年寄の支配に属し与力同心で組織されていました。江戸城本丸諸門の警備や将軍お出ましの時の警護にあたり、また火付け盗賊改めとして市中を警戒していました。明治5年近隣の土地、開墾地を併せ、旧来の名をとり同心町としました。

昭和40年頃まで高校前の都電の停留所名は「同心町」でした。電車が停留所に着くと車掌さんが「同心町、同心町、はい第二のお嬢さんどうぞ」とアナウンスしていたのが思い出されます。「竹早」に変わって10年以上たっていたのにまだ「第二」の印象が強かったのでしょう。

昭和39年住居表示改正で竹早町は小石川四丁目に、同心町は春日二丁目に変わりました。機能優先で歴史と文化の香りの残る町名をいとも簡単に変えてよかったのでしょうか。高校の近辺だけみても金富町（春日二丁目）、第六天町（春日二丁目、小日向四丁目）、表町（小石川三丁目）、久堅町（小石川四丁目）などの町名がなくなってしまいました。今考えても取り返しのつかないことと残念でたまりません。

同窓会、会報名の「篁」もやはり大きく広がったたけやぶという意味です。校名を決める時、「篁」も候補にあがっていました。大正11年に同窓会名を「篁会」、会報名を「たかむら」と決めています。昭和37年の57号から漢字の「篁」を使っています。

昭和35年頃の通学風景



表紙古地図参照

茗荷谷駅前 消されたもの 残されたもの

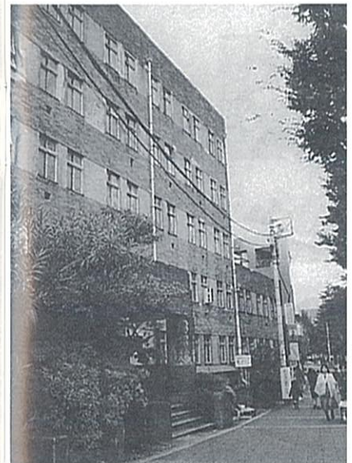
②同潤会大塚女子アパートメント

通学の途中、地下鉄茗荷谷駅の向かい側に、当時（昭和30年代）としては背の高い古いビルが都電の中から見えました。どういう建物なのかずーっと気になっていました。最近、まち歩きをするようになってくわしいことが分かった時には、このアパートが保存再生運動のかいもなく東京都により解体される直前でした。

建物は昭和5年に同潤会のデザインにより建てられました。女性の社会進出を背景に「女子独身者に対して従来の居住の不安を一掃する目的」で建てられ、国内で初めてのシングル女性専用の公営集合住宅だったのです。一定の収入があることが入居の条件で教師や編集者ら当時の花形職業の女性のお城だったそうです。

昭和23年、後に作家、歌手となる戸川昌子さんがここに母親と共に入居しました。4畳半の部屋が150室あって最上階の5階に住み、OLをしながら書いた初めての長編『大いなる幻影』で昭和37年江戸川乱歩賞を受けました。このアパートの屋内や一部住人がモデルになっています。屋上から飛び降りた人、人知れず部屋の中でなくなった人、退職してすることがなく1日中ガタッガタッと階段を昇り降りする人など様々な人間ドラマを17歳から15年間ここで見続けたわけです。男子禁制の同潤会アパートでは編集者との打ち合わせもままならず、昭和39年代々木へ引越しました。戸川さんも保存運動に力を入れていました。

同じように保存の危機にある建物が、樋口一葉も通ったという本郷にある伊勢屋質店です。草の根の運動で何とか残したいものです。


同潤会アパート

③銅（あかがね）御殿（旧磯野家住宅）

大塚女子アパートとは対照的に消滅の危機を乗り越え保存されることになったのが、このアパートの先、窪町東公園の向かいにある銅御殿の名で知られる旧磯野家住宅です。

明治末、植林事業で財をなし衆議院議員も務めた実業家、故・磯野敬氏が、当時21歳の大工、故・北見米造棟梁の腕を見込んで依頼して建てたものです。木造3階建547平方メートルの建物は銅板ぶきの屋根から銅御殿と呼ばれています。設計にあたり磯野氏から出された「地震に絶対倒れず火事で燃えてしまわない」という注文に応えるために銅版を材料に選んだのです。木曽の桧や屋久島の杉、御蔵島の桑などぜいを尽くした材料が使われています。中でも見事なのは門で、カンナくずで何回もいぶし丁寧に磨いた材木を一寸の狂いもなく組み合わせた屋根は凝ったつくりで今でも人目をひきます。後に実業家大谷氏の手に渡り相続の関係で存続が危ぶまれましたが、現当主夫妻の「関東大震災にも空襲にも耐え抜いた素晴らしい建物をどうしても残したい」という強い願いから保存が決まり、昨年12月に国の重要文化財の指定を受けました。ところがここへ来て問題が起きてしまいました。相続で分割した庭だった部分で進んでいるマンション建設計画です。工事の振動や騒音、地下水の変化やビル風による建物への影響が心配されています。

同じように存続の危機に直面しながら日本ナショナルトラストに寄贈され保存活用されることになり公開が待たれているものに、千駄木の旧安田楠雄（安田財閥創業者、安田善次郎孫）邸があります。

銅御殿門

④徳川慶喜終焉の地

高校の斜め向かいの新坂を下った右手に、徳川幕府最後の将軍慶喜が亡くなるまでのおよそ10年を過ごしたお屋敷があったことを、知っている人はあまりいないかもしれません。

大政奉還後、駿府に隠棲していた慶喜は明治30年から巣鴨に住んでいましたが、山手線の工事に伴いここに移りました。3000坪の敷地に建坪1000坪あまりのもと武家屋敷だった所です。慶喜は水戸一橋家の出ですから小石川の旧水戸屋敷（現小石川後楽園）が懐かしく、そこに近いこの地を愛したといわれています。ここでは専ら書画、写真、刺繍、謡曲、囲碁、放鷹、投網などの趣味の生活を送り、大正2年11月22日に亡くなりました。11月29日には府立第二高女でも屋内体操場で追悼式を行っています。

慶喜の七男で跡を継いだ慶久の次女が2年前に亡くなられた高松宮喜久子さんです。昭和5年この屋敷からお嫁入りされました。妹の喜佐子さんは15、6歳の頃（昭和11、2年）、自分達のくらしと崖下（今の地下鉄丸ノ内線の車庫のあたり）に広がる貧しい人達とのくらしの差について真剣に考え精神的に落ち込んだそうですが、越後高田榊原家に嫁いだ後、戦後はご本人もそれなりのご苦労をされたようです。

後に屋敷跡は大蔵省官舎となりましたが、今は空家で当時からの大銀杏の樹だけが何かを物語るように寂しげに立っています。

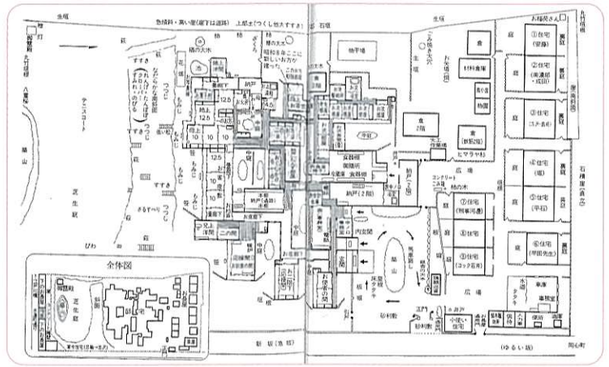
⑤小石川蝸牛庵（幸田露伴旧宅）跡

伝通院から旧柳町（小石川一丁目）方面へ下る坂の中央に、椋の大木が道を分けるように立っています。幸田露伴は関東大震災後、被害を受けた向島を引き払い、この椋の木の傍らに越してきました。その頃、行き来していた樋口一葉の妹の邦子さんからの誘いがあったからだそうですが、その邦子さんが礫川堂という文房具屋を営んでいたのが伝通院交差点の現在ジョナサンのあるあたりでした。

露伴は四半世紀住んだ向島の自宅を「蝸牛庵」と名付けていたのでここを「小石川蝸牛庵」と呼んだわけです。露伴は昭和12年『五重の塔』などの著作活動により、横山大観らと共に第一回文化勲章を受けます。離婚して一子玉と共に実家に戻ってきていた娘文にだんだんと戦争の激化による生活の苦難が押し寄せます。生活の窮迫には人間の精神を鍛える力があるのでしょう。昭和20年5月の空襲で蝸牛庵が焼失し、22年、疎開先の千葉市川で露伴を見送るとそのすぐ後に元の所に新居を建て、ここで文は生活に密着した文学の表現者として自立します。

昭和30年代、通学の途中、夏の暑い時などこの椋の木の木陰が格好の休憩場所でした。着物姿の文を見かけたこともありました。娘の玉も文筆家となりますが、その素地は蝸牛庵での祖父、母との暮しの中で培われたものでしょう。4、5年前、青木玉さんとお会いする機会があり、「竹早の卒業生です」と申し上げたところ、ご近所のよしみというお気持ちからでしょうか、「まあ!そうなんですか」と懐かしそうに、竹早町、同心町、表町界隈のことを話してくださったことが忘れられない思い出として今も心に残っています。

（15回生編集委員）



蝸牛庵跡前に今も残る椋の木

参考にした本

「ぶんきょうの町名由来」（文京区教育委員会編）
「竹早の百年」（百周年記念誌編集委員会編）
「大いなる幻影」（戸川昌子著）
「徳川慶喜家の子ども部屋」（榊原喜佐子著）
「小石川の家」（青木玉著）

文京まちあるき　茗荷谷駅前　消されたもの　残されたもの

篁会会長挨拶

「もったいない」

磯貝恵三　高校7回生（昭和30年卒）

星野前会長の「輪になって語ろう」精神を受け継ぎ、皆さまの助言をいただきながら、理事会、各委員会が全員参加体制で精力的に活動していることを、まず報告させていただきます。

昨年、草の根の植林運動を続け、ノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイさん（ケニア環境副大臣）が来日したときに、無駄をいさめる「もったいない」という日本的精神に感動、「MOTTAINAI」を世界語として広めたいと発言しました。食べ残しのできない世代の日常語「もったいない」の復権に、背中を押された気分です。

学校という教育現場で、手付かずの食べものがそのまま捨てられる現状に疑問と憤りを感じる、との給食調理師の意見を新聞にみました。他にも教育現場での「もったいない」現象があるとすれば、学力低下を理由に見直しを迫られている「ゆとり教育ー総合的学習の時間」もそのひとつ。自ら考える時間であったはずの土曜休日の使いかたも、受験塾などに「外注」されそうな気配です。経済や効率を優先する昨今の社会現象共ども日本の将来が心配です。

この数年間、小・中・高校生を対象に、ものごとを発想し、かたちにする楽しさを伝えるため「デザイン」の出前授業やワークショップを行ってきました。みんなと違う答えを出すことが条件ですが、高学年になるほど発想力が鈍化することも観察できました。そこでお願い。会員の多彩な智恵と知識、経験を後輩たちの「生きる力を創造する糧（かて）」にしなければ、それこそもったいない!と思います。文化の伝授を具体化する手だてが私たちの課題です。

会員皆さまのご健勝を祈りながら、さらなるご指導、ご支援を切にお願い申しあげます。

（磯貝新会長は大学卒業後、東芝勤務を経て筑波大学教授となり、現在はデザインコンサルタントとして活躍されています。）

校長挨拶

「学びのみちのり」

竹早高校校長　甲田充彦

篁会の皆様には日頃から母校の教育に関しまして温かいご支援ご協力を賜り深く感謝いたします。

お蔭様で今年も他校にはない教育環境の充実が図られております。何よりも中学生の本校を志望する生徒の質と量が高まる一方であることにそれは表れています。今年の入学選抜の倍率は過去最高を記録しました。

さて、今日的な高等学校における課題についてですが、私が今年一年務めた中央教育審議会においての大きなテーマは、義務教育の国庫負担制度と義務教育の教育課程の改定についてでした。現在置かれている高等学校の課題と関連付けて意見を述べてきましたが、特に強調したのは、教育課程における小中高大の関連がきわめて薄いことでした。義務教育の改定に当たっては、高等学校への連結を考慮し、高等学校の検討にあたっては大学等の高等教育からの要請等を取り入れるという当然のことができていないということです。

これまでの義務教育の教育課程は、どちらかというと義務教育段階だけの自己完結型になっています。高等学校は入り口で教育内容3割削減の中学生を迎え、出口では大学入試で5教科7科目が求められるなど、高校生に求める学力のバルブは全くゆるんでいない現状に悲鳴を上げている状態なのです。特に公立進学校においてはユニバーサル化している大学等への接続を十分考慮した教育課程編成が困難な状況にあります。

学校においても、こうした議論を重ねながら、竹早の教育を考え、教職員と一層の努力をしていきたいと思います。篁会は若い人も多くなったと聞いております。皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。

（甲田校長は平成18年4月より教職員研修センターの東京教師道場で、教授として活躍されています。）

なつかしの先生

大久保 廣行先生
（1961～1965年在職　国語科）

初任・初心の竹早高

竹早は私が教員になって最初の赴任校である。当時担任した生徒たちは、今年は還暦を迎えるはずである。しかし、今でも私の目には初々しい高校生のままに映る。三ミリ方眼のガリ版刷りの授業資料を作ったり、つぶれかけたバドミントン部の顧問になって諏訪で夏の合宿をしたり、野田（浦和）の鷺山へクラスで出かけてわが家で一休みしたり、鮮やかな思い出は尽きることがない。初任の印象はそれだけ強く脳裡に刻みつけられている。二十代後半の無我夢中の五年間であった。

それから東京教育大学付属高校へ移り、さらに大学へと転じた。高校教員としての体験が大学でどれほど役立ったか知れないが、今ならばもっと上手な授業ができるのにと思うと、何だか口惜しい気がする。しかし、修業時代に優秀な生徒たちに恵まれたことは幸せであった。

私の専門は上代文学それも万葉集研究であるが、そのかたわら多くの教員を世に送り、研究者やその卵を養成したことは、ありがたい職業を選んだものだと今にして思う。それももう一年、来年三月は定年なので、この二年間はそれを締め括るにふさわしい計画をいくつか実現すべく進めている。

（東洋大学文学部教授）

岡本 康彦先生
（1997年より在職　音楽科）

T-Squareで面白く遊ぶ

都内の有名・無名の和菓子店から連日のように饅頭を買ってきて、体重の増加も何のそのと味見を繰り返し、ようやく価格以上の物が出来たと自信を持って送り出した紅白饅頭の晴れ舞台となる『創立百周年記念式典』が終わり、同じく式典用ビデオ制作が終わった美術科の中原先生と二人でHomo Ludensたるべく、次の『面白く遊べること』の計画を話し合っていました。「美術室前の空間を使って何か出来ないかなあ」「そりゃいいねえ、できるよ」という訳で、お昼休みの30分間を使って、とびっきり楽しく興奮できて、かつ生徒の知的好奇心を刺激するという中年男の願望と教育者としての矜持をかけた出し物を計画することになりました。

これがT-Squareの始まりでした。柿落しは2001年9月6日、柿崎先生のリュート演奏会。「これまで、こんなに練習に明け暮れた夏はなかった」というリュートの素晴らしい演奏と、柿崎人気で超満員の盛況でした。演奏中、校内放送が入ったり、隣の更衣室へ向かう生徒たちの話し声が声高に聞こえたり、中世の大道芸の世界のようでした。それ以後、凡そ50回を数えることになりました。帰国室の先生方のご支援で行われる帰国生報告会、スペインやモンゴルからの方によるお話、教員による専門、専門外の講義を中心としたT-Square Talk、卒業生、教員や有志生徒による演奏、音楽選択クラスによる合唱の発表などのT-Square Concert、そしてダンス部や小西先生によるT-Square Danceが主なものです。それぞれの出し物に思い出がありますが特に印象深かったものをご紹介しましょう。

- 昨年若くして急逝された佐藤正博先生による『高山植物の魅力』と題された講演は、ご自身が撮影された花々の美しさと、見事なお話が素敵でした。
- 小西啓子先生による『"西馬音内盆踊り"を舞う』と題された公演はその数ヶ月前に交通事故で亡くなった女生徒を悼む鎮魂の舞でした。美しく、なまめかしく、そして鬼気迫るものでした。
- 佐竹美幸さんと山田優子さんによる箏と三弦の演奏会は、プロの力量をまざまざと感じさせられる、まさに『凄い!』の一言でしか表現できない素晴らしいものでした。
- 茗荷谷駅前、和菓子の名店『一幸庵』店主、水上力さんによる『和菓子に命をかけて』と題されたお話は、ご主人のご好意による"わらび餅"をいただきながらの誠に美味しい、心温まる会となりました。

卒業生の方々がご出演くだされば、より一層『面白く遊べる』のではないかと期待しております。

活用される「篁基金」

松田尚子さん

100年はもつ校門の銘板完成！

平成10年より10年間の計画で進められている母校への篁基金援助。今年度は吹奏楽器、パソコン機器、百科事典、柱時計等の備品購入と並び、今まで目立たなかった学校名の銘板が掛けられることになった。生徒からの応募の結果、3年生の松田尚子さんの書いた篆書（てんしょ）による作品が採用された。学校訪問の際はこれからの100年に思いを馳せてじっくりご覧ください。

校門銘板

篁会ホームページリニューアルのお知らせ

平成17年3月に開設いたしました篁会のホームページが、
1周年を機にリニューアルいたしました。
今回の一番の注目は「**竹早の100年**」です。
懐かしい写真や校歌、簡単な年表などを通して竹早100年の歴史をご紹介しています。
さらに理事会や総会からのお知らせも今まで以上に充実した内容となりました。
また今回から「竹早高校だより」として、現在の母校の様子もお伝えしていく予定です。
会員の皆さんはもちろんのこと、在校生、保護者、あるいはこれから竹早を受験する方々にも、
楽しんでご覧いただけるような内容を目指してまいりたいと思います。
是非一度「お立ち寄り」くださいますようご案内申し上げます。

ホームページアドレス：http：//takamurakai.web.infoseek.co.jp/

学校の活動報告

竹早高校副校長　丸山正広

篁会には毎年多大なご支援をいただき感謝申し上げます。おかげさまで、生徒たちは大変に恵まれた環境の中で学習、学校行事、部活動と充実した学校生活を送っています。

平成17年度は、「45分7時間授業を堅持し、1分を大切に教師も生徒も授業で勝負」「2学期制から新たな3学期制への転換に向け検討する」「指導内容の精選と指導法の改善を継続するとともに、特別授業や補習・講習を実施する」「3年間を見通した指導により、国公立・難関私立大学の合格者を増やす」ことを具体的な柱として取り組んできました。

「自主自律の精神を育て、確かな学力を伸ばす」を研究主題とし取り組んできました、学力向上フロンティア事業も最終年となり、三年間の実践報告をまとめ、冊子を作成しました。

また、平成15年から3年間、2学期制を実施してきましたが、生徒の実態に照らし、きめ細かい指導を充実させるため、平成18年度から45分7時間授業を堅持し、3学期制にすることに決定しました。

今後も三年間の実践をもとに、本校の歴史や伝統を活かし、自主自律の精神を育てつつ、確かな学力を身に付けさせ、進学指導の一層の充実に努めてまいります。篁会の一層のご支援、ご協力をお願い致します。

以下、実施した年間の活動と進路実績を報告します。

● 平成17年度の主な行事

4月　6日 始業式　7日 入学式(241名入学)　21日 健康診断　28日 校外学習(遠足)　30日 PTA総会

5月　2日 生徒総会　18日 体育祭(小石川運動場)　30日～6月2日 定期考査　31日 第1回学校運営連絡協議会

6月　2日 避難訓練　11日 授業公開　15日 フロンティアハイスクール事業　授業公開・研究協議会

7月　11～14日 期末考査　19日 歌舞伎教室　22日　第1回大学講座(立教大学)　22日 全校集会　23・24日 水泳部関東大会(甲府市)出場

7月～8月　夏季休業日　補習 各教科で453時間実施

合宿 尾瀬(剣道、バドミントン、ソフトテニス、男女硬式テニス、ダンス、吹奏楽、箏曲)

河口湖(男女バレーボール、男女バスケットボール、軟式野球)

山中湖(サッカー、水泳)

霧ヶ峰(陸上競技)

竹早山荘　北アルプス・白馬岳～白馬三山(山岳部)

8月　水泳部インターハイ(習志野市)出場

9月　1日 課題テスト・集会・防災講話　8・9日 竹の子祭　10・11日 竹早祭　28日 前期終業式　29～30日 期間休業日

10月　3日 後期開始　8日 授業公開・学校説明会　18日 ニュージーランド高校長学校訪問　21日～26日 プレ定期考査　25日 第2回学校運営連絡協議会　29日 体験入学、学校説明会

11月　7日 開校記念日　6日 都立高校合同説明会(立川高校)　13日(新宿高校)　12日 PTA夢さがし講演会(講師:星野昌子氏)

12月　5日～8日 定期考査　20日 全校集会　21日～1月7日 冬季休業日　補習 各教科で80時間実施

1月　(平成18年)　10日 授業開始　21・22日 大学入試センター試験　27日 推薦入試

2月　17日 帰国生入試　18日 保護者のための進路講座　23日 一般入試　24日 国際理解講演会・生命尊重特別講演会

3月　2日～8日 定期考査　4日 卒業式(233名卒業)　8日 アメリカ高校生学校訪問　14日～17日 2年修学旅行(沖縄)　22日 大学等説明会　23日 芸術鑑賞教室　24日 修了式

● PTA主催の竹早塾（土曜自習室）年間10回

（参加生徒数　延べ1,080名）

● 進路状況（合格者数一覧・平成17年度卒業生233名）

平成18年4月4日現在

- 国公立大学(13)　東京工業大学(3)、お茶の水大学、千葉大学、宇都宮大学、埼玉大学(2)、首都大学東京(2)、高知大学、信州大学、琉球大学
- 私立大学(337)　早稲田大学(18)、慶応義塾大学(5)、上智大学(6)、東京理科大学(12)、明治大学(20)、青山学院大学(7)、立教大学(19)、中央大学(12)、法政大学(20)、津田塾大学、日本女子大学(5)、東京女子大学(2)、学習院大学(7)、明治学院大学(9)、成蹊大学(10)、武蔵大学(4)、成城大学(2)、日本大学(17)、東洋大学(31)、駒沢大学(20)、専修大学(5)、国際基督教大学、東京電機大学(4)、東京農業大学(5)、東京家政大学(4)、芝浦工業大学(4)、大妻女子大学、昭和女子大学(3)、その他の大学(83)
- 短期大学(2)千葉県立衛生短期大学、青山学院女子短期大学
- 専門学校(10)日大医学部附属看護、国際航空、日本外国語、文化服装学院、東放学園音響、早稲田速記、総合学園ヒューマンアカデミー、espミュージックアカデミー、その他(2)
- 就職(0)

4月からは新たに、桑木 健校長と八百板 真弓副校長が就任されました。丸山副校長は都立大森高校の校長として活躍されております。

在校生の活躍紹介

創部して間もない、バイタリティー溢れる「ダンス部」と伝統ある「茶道部」を紹介します。文化祭に是非訪れてみてください。

ダンス部

部長　歌丸　郁香

ダンス部は2001年に同好会として始まり、2004年に部に昇格しました。現在は1年生22名、2年生10名の計32名で活動しています。部員は高校に入ってからダンスを始めた人ばかりです。週4回の活動日には主に文化祭などの発表に向けて練習しています。昨年度の竹早祭では、たくさんの方に私達のダンスを観ていただき、アリーナ発表「七笑八踊」で見事竹早祭グランプリを受賞することができました。本当に嬉しかったです。部員全員が一丸となって、毎日厳しい練習を乗り越えた成果が出たと思います。観に来てくださった皆さん、ありがとうございました！！

ダンス部は文化祭の他に校外での活動も行っています。最近は、東京都女子体育連盟主催の「体育実技研究発表会」に毎年出場しています。この発表会は他の学校の演技も観ることができるのでとても勉強になります。主に作品作りや練習は部員で協力しながら行いますが、卒業生に来ていただき、練習を見てもらうこともあります。これは私達にとってとても貴重な機会でもあり、先輩方には本当に感謝しています。私達の元気と笑顔で満ち溢れたダンスのPOWERは言葉では言い表せないので、ぜひぜひ私達のダンスを観に来てください！！　私たちは日々挑戦し続け、成長し続けます！！　年々人数も増え、活動の幅も広がっています。今後のダンス部にどうぞご期待ください☆

茶道部

部長　吉田れい奈

私たち茶道部は週に1回活動しています。よく茶道部はお菓子を食べて、お茶を飲んでいるだけでは？と思われがちですが、そんなことはありません。専門の先生方に教えていただいています。ちなみに裏千家です。道具を用意し、部屋の入り方も習ってお客様に自分で点てたお茶を飲んでいただけるようにお点前の練習をしています。

また、一年中同じことをずっとやっているのではありません。基本は同じですが、お点前も季節によって違うところがあるんです。棚の形が違っていたり、なかったり、夏は部屋を涼しく見せるために襖を開けて、冬は部屋を暖かく見せるために襖を閉めてお点前をします。お点前をしている姿がきれいに美しく見えるように心掛けてやっています。正座でお点前するので慣れるまで足がしびれて大変です・・・。

文化祭では実際に一般の人にお茶（お菓子）をお出しします。部員以外の人に自分で点てたお茶を飲んでいただくのは初めてのことなので、とても緊張しますが、日ごろの練習の成果が出せるようにと頑張っています。毎年たくさんのお客様に来ていただいているので、いつも完売です！お昼が終わった午後にみなさん集中するので、午前中が空いていて穴場かもしれません。今年の文化祭も美味しいお菓子とお茶を用意してお待ちしていますので、ぜひ和室へ寄ってみてください。

関西篁会だより

野田　朱實　関西篁会会長　高校7回生（昭和30年卒）

関西篁会だより

平成17年の関西篁会総会は、秋晴れの10月16日（日）篁会から磯貝恵三新会長をお迎えして伝統と格式ある宝塚ホテルで開催されました。この日のために用意した会場はホテルで唯一360度展望できる広い円形の部屋です。最上階のため、神戸六甲の山々、眼下には武庫川のゆるやかな流れ、新装なった歌劇場の屋根、観覧車、遠く霞んで大阪の高層ビル街までが見渡せ、出席の皆様の歓声の中で総会が始まりました。ご来賓の磯貝会長の挨拶と楽しいお話の後小憩をとり、懇親会に入り料理も有名なホテルのお味をお楽しみ頂きました。いつ頃か懇親会で生まれた呼び名、「大先輩・中先輩・後輩」が和やかに入り混じって思い出話や近況報告がひと回り回った後、広い会場とグランドピアノと舞台があることを活用して、当番の手作り歌集『歌声響かせて♪』の中から全員で合唱を楽しみ、最後に恒例の校歌2曲を斉唱してお開きとなりました。

終了後、希望者は歌劇に関する貴重な陳列品や上演中の舞台写真・衣装などが展示してあるホテル館内を見学。また、宝塚散策コース「手塚治虫記念館」「ファンの憧れ花の道歩き」など、思い思い寄り道を楽しんで帰路に着かれたと聞いております。会場には本の紹介コーナーを特設して、先輩中川芳子様（補4回生）の近著、『故地想う心涯なし』の本を陳列し、皆様にお手に取って読んで頂きました。

また、今年の総会にお元気でお逢いできます事を楽しみに・・・。篁会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

平成18年度関西篁会総会ご案内
日時：平成18年10月29日（日）11：30〜
会場：ホテルグランヴィア大阪（TEL06-6344-1235）
（JR大阪駅）

中川　大子　高校13回生（昭和36年卒）

神戸からシニアの元気発信

夫の転勤に伴い神戸にやってきて、すっかり神戸の住人になっています。阪神大震災では、運よく高齢の両親初め家族は全員命が助かりました。ソフトテニスを長年続けていたことから震災後、市から体育指導員の委嘱がありました。震災の体験から健康な自分が貢献できることがあるならとスポーツを通じた健康作りの推進のための活動を続けています。仮設住宅の多くの方たちの心と体のケアを願っての巡回体操教室が最初の活動でした。現在は未来を担う子どもたちのための活動も始めています。私自身健康づくりについて意識しはじめたのは子育てと併行して好きなことにのめり込んでいた時で、運動不足解消で始めたソフトテニスは効果てき面でした。以来私の元気の素で、大きな楽しみにもなっています。

神戸の代表で『ねんりんピック』に参加した時は全国のシニアの方たちの素晴らしいパワーを実感しました。好きなことにはつい力が入りがちですが、大切なことは長く継続して楽しめること。「微調整」をキーワードにこれからも神戸で元気に頑張ります。

姫野　優子　高校23回生（昭和46年卒）

古都に親しんで

東京を離れて30年、関西の空気にすっかり馴染み、古寺を巡りその歴史を訪ねることを日々の潤いとして過ごしています。古いお寺を訪ねるのはいいものです。特に信心深いわけでもなくどこがいいのかと問われてもうまく説明できませんが、現代の私たちに見せてくれるその姿には心が動きます。澄みきった空に映える凛としたそれらの屋根の美しさは何にもたとえようもなく何度訪れても魂が吸い込まれるようです。

この数年古建築について、また寺々のご住職方の興味深いお話を聴く機会を多く得ることができました。特に法隆寺の高田良信長老から月一回、法隆寺千四百年の歴史や逸話等を聴くことは大きな楽しみです。学生時代教科書でしか知らなかった「若草伽藍跡」を実際にみた時の感動は言葉に表すことができません。「日本人の心の原点」とも言える奈良、我が家から僅か1時間程で行けるところですが、これからも夫とふたりで「はるか古を想う旅」を重ねていきたいと願っている今日この頃です。

湘南篁会だより

影本　昌則　高校6回生（昭和29年卒）

湘南篁会の近況報告　―平成17年度の活動―

5月30日（月）に恒例の総会と親睦会を鎌倉市七里ガ浜の「鎌倉プリンスホテル」で行った。当日はあいにくの雨で何時もの富士を仰ぎ見ることが出来なかったが、幸に閉会の頃には雨も小止みとなった。

総会では初め大塚会長（高校2回生）の挨拶があり、雨天にも拘わらず来賓及び会員の方々がご出席くださったことへの御礼、役員交代の報告、新役員の紹介があった。来賓の挨拶では、先ず篁会理事・遠藤きみ様（星野昌子会長の名代）から篁会の現状、同窓会のあり方の変化等についての話があり、もうひと方の来賓の篁会名誉顧問・城戸崎愛様からは、篁会の改革が新しい会長のもと建設的な方向に向かって進んでいるとの話があり、最後に役員の神林範様（高校2回生）からの会計報告で総会を終えた。

続いての親睦会は松本紀子様（高女41回生）の乾杯で始まり、フランス料理の着席でのパーティで、アトラクションは「金子蘭峰とその社中」による「南京玉すだれ」の演技で、終わりには講師の指導で玉すだれの操り方を教わり、出席者も楽しむことができた。そして全員で校歌を歌い、来年の再会を約し散会した。

当会の名簿にも男性がかなり増えて来ているので、本年は男性参加者を増やす事を役員会で話し合った。地域外の方も含め男性の参加を役員一同切望する。

なお、平成18年度（2006年）の総会並びに親睦会は下記の通りです。奮ってご参加ください。

日時：平成18年5月16日（火）11：30〜14：00
場所：鎌倉プリンスホテル
会費：7,000円

村上　英子　高校8回生（昭和31年卒）

トレッキングに魅せられて

幼い頃から山に慣れ親しんできた私は、国内は東北の山々を中心に縦走。50代半ばでヨーロッパのアルプスなど4000M級をトレッキングしました。

5年前に出かけた神秘の王国ブータンの4300Mのダカラ高原は、忘れられない思い出です。雨期でダイヤを散りばめたように美しい湖が点在し、雨の晴れ間に姿を現す美しいヒマラヤの霊峰、黄色のケシの花やノビルダイオウ等々珍しい薬草や植物が自生しています。高原はヤクが放牧され、小さな石の家の大家族の生活は厳しい自然の中で生き生きとしていました。満天の星が輝くキャンプの夜は疲れを癒します。国を超え、人種を超えた人との出会い、人の情を知りました。地球の財産ともいうべき「美しきブータンの自然よ永遠たれ!」と叫びたい思いです。

田中　順子　高校12回生（昭和35年卒）

昨今受験事情

現在嘱託として勤務している先は、都立S高校。部活動や文化祭などが盛んで穏やかな伝統校である。大方の生徒はそこそこの大学や専門学校に進学するが、AO受験や推薦受験でパスすることを望んでおり、一般受験は僅かしかいない。私はこのようなごく普通の生徒に接するのは初めてだったので、面食らうことが多かったが、形ばかりで中身の無い脆さも見えて、興味深かった。

受験生が力を入れて勉強したのは、小論文と1学期の内申の成績を上げるための学科丸暗記である。小論文と称し、教員は起承転結ふまえて現代の諸問題を字数内で論じる訓練を積ませる。感覚的言語は排し、客観的論述を使ってそれらしく形を整えよと教える。自分の感性を閉ざさせ嘘っぽい世界を構築する授業がとても嫌だった。1学期は5か4の成績を手に入れるために生徒たちは集中する。教師に擦り寄って、いい子を演じ、点だけをもぎ取る。もぎ取ってしまえば、古典などなんの関心も無いからその後の授業は聞かない。手の平を返したような変貌ぶりに唖然とした。推薦ですり抜けてくる生徒たちの安易さは、受験の緊張感を経験しないことと関係してくるのかもしれない。

竹早エコー

新納　敦子　高女46回生　（昭和20年卒）

喜寿の文集「わかたけ」

私達が小学三年生の年に日支事変が勃発、そのまま高女一年生の年日本は太平洋戦争（当時は大東亜戦争）に突入しました。そして卒業の年終戦を迎えたのですから私達はずっと戦争と共に少女時代を過ごしてきたことになります。津村節子氏の「茜色の戦記」はまさしく私達の女学校生活そのものであります。

温良典雅、質実強靭、報恩感謝が校訓だったと記憶していますが、私は質実剛健ならぬ強靭という言葉が好きで誇りに思っていました。非常時下の学校生活でしたが生徒一人一人を大切に思ってくださるよい先生方に守られ、明るい愉しい思い出も沢山ありました。

時は流れ、卒業終戦から六十年目の平成十七年、私達は喜寿を迎えたのです。命あって共に喜寿に会い得た幸せを喜び感謝して記念の文集を作ることになりました。既に故人となられた友の作品も参加、戦争体験、恩師旧友の思い出、戦中戦後から現在までのあれこれ、短歌、絵画もありで各人各様の人生を写し出して文集「わかたけ」は成りました。人生って素晴らしい!なんて自画自賛しています。或る友は自らの来し方を顧みて、一番の根っこに第二（高女）時代身につけた質実強靭の精神が住みついていたと述懐していますが、ふと、昔強靭という言葉に感動した一人の少女を思い出してしまいました。その上温良典雅ときては言うこと無し、でございますよね?（笑い）

山廣　俊雄　高校7回生（昭和30年卒）

卒業50周年　竹早七賢会

卒業50周年の節目に当たり、平成17年11月20日、母校が望める東京ドームホテル42階で行われ、松崎先生を囲んで生徒40名が話に花を咲かせました。

今回は特に同期の磯貝氏が篁会会長に就任したことに併せて久し振りの参加者もありで大いに賑いました。

会終了後は希望者で、富坂から伝通院に詣で、母校竹早高校へ100周年記念モニュメントを見に行きました。竹早高校の現在の校舎が出来た時は落成記念祝を兼ねて、母校で篁会総会（平成9年）を当番幹事学年として行いましたので、校舎のことは多くの人が知っていましたがその後、平成13年に設立されたモニュメントは初めて目にしたので、皆さん感慨一入でした。

今回より、これまで2年毎に開催していた同期会を毎年行うことになりました。18年度は11月20日前後に再び東京ドームホテルで開催する予定です。

今回も欠席者の多くの方々から同期会運営費の振り込みを頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

堀江　禮子　高校11回生（昭和34年卒）

板垣世界史を聞きたくて

ハングリー世代（1940～1941年生れ）の私達は今もハングリーなのかなー?　8回目となる11回生の今回の同期会は05年5月12・13日清里の竹早山荘で。ハングリー精神が又もや頭を擡げ、"少しでも勉強しよう!!"と、再び板垣雄三先生のお話を聞く会となった。高校時代の「世界史の板垣先生」は、現在文化功労賞をも受賞（03年）されたまさに現代中東地域研究界の泰斗。私達の申し出に応諾された先生は、御多忙な間隙をぬって竹早山荘へお越しくださった。

5月12日午後、集まった11回生25名と噂を聞きつけ馳せ参じた地元清里の方々の為に、『イラク戦争（この呼称でいいのか?、でも敢えて使うと先生）と21Cの世界秩序』と題してお話し下さった。01年「篁会総会」の講演で鋭いご指摘をされてから丁度3ヶ月後におきた9・11。国連でも法的には判らないといわれる「テロ」に対する反テロ戦争の強行―ひとつとして無駄な言葉の無い明晰な語り口のお話に、私達も頭をフル回転させて聞き入る。講演後先生は我々の初歩的質問にも丁寧にお答えくださり、その続きは食事中食後にも引き継がれ、様々な現代史の切り込みに拡大。夜遅くまでお付き合い頂いた。

翌日は時々小雨パラつく天気模様であったが清里高原を散策。冷えた体を柳生さんのお店で、色彩り鮮やかなたっぷりのフルーツティーで温め、お昼はこれ又たっぷりの甲州名物「ほうとう」でお腹を満たし、心身共にハングリーから解放されて散会しました。

坂原　冨美代　高校17回生（昭和40年卒）

竹早高校が嫌いでした

在学中は竹早高校の重苦しい雰囲気が大嫌いでした。ところが高校の教員になり、卒業から30年以上たった平成9年4月、教師として竹早に赴任し、すでに9年がたった今では竹早の印象がまったく変わってしまいました。平成12年に挙行された百周年記念式典に向けての準備、写真集『たずさえて友と一写真でたどる竹早の百年』（式典参加者に進呈、その後毎年の新入生にも進呈）と百周年記念誌『竹早の百年』の2冊の記念誌編集などに加わって初めて竹早の歴史を知り、自分が感じたあの重苦しさが実は紛争前夜の竹早の苦悩と重なっていたことを知りました。今の竹早生は「竹早が大好き」といいます。しかし私同様、自由でのびのびとした今の竹早への産みの苦しみの時期に高校生活を送って、竹早に良い思い出がないと言われる方に、是非『竹早の百年』をお読みいただきたいと思います。今は百周年事業に関われたことに感謝しています。

また城戸崎元会長以下高女時代からの先輩の皆様と一緒にお仕事をするうちに、竹早の精神とでも言えるものが竹早に学んだ卒業生に脈々と受け継がれていることも実感しました。

もう一つ、百周年事業に一生懸命に取り組んで素晴らしい仕事をしてくださった百周年委員の先生方との出会いも最高でした。竹早の卒業生以上に竹早を愛してくださるその先生方と竹早の歴史を掘り起こすうちに、さまざまな問題を抱えながらも、一流の教育をしようと努力していらした先生方や、この地で青春を過ごした多くの卒業生達から、バトンを渡されたように感じたものです。伝統を受け継ぎつつ、さらにこれからの竹早をどんな学校にしていくのかと、未来を語り合い、いくつかの試みを続けてきたこの9年間は、言葉では言い尽くせない楽しく充実した日々でした。

野川　淑子　高校18回生（昭和41年卒）

篁会総会に是非参加を・・・

私たち18回生は、本当に40年間一度も同期会を開いた事がないのでしょうか?決して学校が嫌いな訳ではないのです。いえ寧ろ学校が大好きで、特に文化祭、体育祭等には、心底エネルギーを注ぎ込み、高校生活を謳歌していた・・・・そう思います。個性的なクラスメートは、校則に縛られる事と破る事を巧みに楽しみ、もとより戦後2、3年生まれ育ちの私たちは自主自律していましたから（?）卒業後の学校紛争など思いもよらぬ事だったのではないでしょうか?団塊世代の先陣として、それぞれの道へ、そして高度成長の社会へと急ぐ様に、ヒマラヤ杉の脇を駆け抜けて卒業してしまった様に思われたのでした。

今、人生の半分が過ぎ、ふと高校時代の友人たちを思い出す事はありませんか?関係者の皆様の大変なご苦労で完成した竹早100周年記念写真集『たずさえて友と』を開いてみますと、懐かしい思い出が蘇ります。開通されたばかりの新幹線を利用しての熱海への遠足、八ヶ岳寮（現竹早山荘）で見た星の美しさ、緊張した授業の雰囲気までもが思い起こされてきます。18回生の皆様、是非今年の篁会の総会、懇親会に出席して一堂に会し、旧交を温めましょう。2年後の総会は18回生が幹事となります。情報を交換し、18回生の底力を発揮して、楽しみながら準備していけたらと思います。是非ご協力をお願い致します。

岡田　守弘　高校23回生（昭和46年卒）

落語も聴ける竹早山荘

昨年の秋、とある土曜の昼下がり、清里高原・竹早山荘では落語の出囃子がラジカセから休みなく流れていました。日も暮れかかった4時半、いよいよ、落語協会真打・柳家さん生が、山荘のホール正面に張られたピンクの幔幕を背に、机3つを合わせて作った特設高座の座布団に座りました。

観客は多士済々で、8回生から23回生までの卒業生、ヘイヘイホー（森の手入れボランティア活動）・リフレッシュツアー

（山荘周辺の名所旧跡探訪ツアー）・スポーツ吹き矢講習会・作陶会などの山荘関連イベントの参加者、篁会役員、竹早会役員、そして、その配偶者、親戚、友達、会社の同僚、同業者、近所の方々等の約50名。

「時蕎麦」と「しじみ売り」で、たっぷりと笑わせ・泣かせてくれた後は、師匠のおカミさん手作りの料理で打ち上げパーティーです。68歳から20歳までの参加者は、暖炉の火の燃え盛るなか、夜の更けるまで、落語を肴に美味しい料理と語らいを楽しむことができました。

竹早山荘では、毎年、色々な催し物が開かれています。HPに案内が出ておりますので、アクセスしていただき、是非、お越し下さい。清里でお会いしましょう。

(http://www32.ocn.ne.jp/~takehayakai/)

淺井　智子

高校57回生（平成17年卒）

『離れていても…』

昨年の卒業式から、あっという間に一年が経とうとしている。二年間教室を共にした同級生の歩む道は多様である。夢を実現する為に大学や専門学校へ進学した人、志望校合格を目指して頑張っている人、社会人として自立の一歩を踏み出した人、自分の可能性を試すために海外へ飛び立った人・・・。各自多忙な毎日を送っているため集まる機会はほとんどない。親友であっても連絡を取り合う機会は少なくなってた気がする。

しかしB組の仲間は「あるもの」で繋がっている。その「あるもの」とはインターネット上の掲示板である。この掲示板は私たちが二年生の時に竹早祭のアイディア交換の場として作ったのだが、今ではそれぞれの近況報告やちょっとしたボヤキなどを自由に書き込む場所になった（なんと書き込みが8500件を突破!）。

たとえ遠く離れて、生活の時間帯が違っていても携帯電話やパソコンから、気が向いたときに友達の近況を知ることができる。なかなか会うことはできないけれど、インターネットという便利な道具を利用して、在学時と同様に同級生との繋がりを保っていられることが大変嬉しく、今度会うときへの期待も高まっている。

尊敬と羨望の傘寿記念誌「柏葉」

昭和17年卒業の高女42回生の方から、平成17年に発行された記念誌が届けられました。

「柏葉」命名の由来は恩師のおひとり柏木先生の「柏」と年をかさねるという意味の万葉の「葉」からとったそうです。恩師と共に教え子が末永くという信念をこめて、昭和24年のクラス会後に命名したそうです。

80歳を迎えられ、亡くなられた方もいらっしゃるし、現在のご様子も様々ですが、記念誌を発行しましょうというその意気にまず圧倒されます。

そして、皆様の文章を拝見すると、その何事にも主体的に取り組む姿勢や、お仲間との絆を大切にされていることに、さすが第二高女ではぐくまれたバックボーンは健在なのだなと、還暦と一歳のひよっこは尊敬と羨望の感を強くしました。

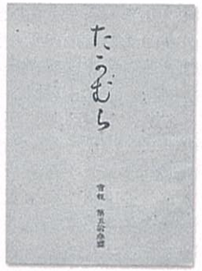
時代を映す旧会報「たかむら」

昭和27年版の旧会報「たかむら」(53号)が高校４回生小山豊子さんから届けられました。

「日本は独立しました」「行き過ぎた自由思想から起こる混乱・・・学生の不穏な行動」の言葉はまさに時代を映しています。「心のふるさとはなんといっても母校です。戦に敗れても、心のふるさとはこのように立派に残っています」を読むと、当時の生徒にとっての母校に対する思いの深さに胸がつまります。「会員消息」も戦後の安否の報告が多く、同級会や同窓会が個人の家で開かれているのもむべなるかなです。角川、木村、早坂、桑原、小野、小宮山（織戸）、間瀬（加唐）、笹山、大谷先生の懐かしいお名前が、既に見られます。

「結婚相談」が篁会の事業のひとつとして始められていたことを、今の若い方が知ったらどう思うでしょうか。

※旧い資料をお持ちの方、ぜひご提供を。



竹早山荘レポート

広大な森の中の八ヶ岳寮

三輪　主彦

明治時代ドイツからやってきたナウマンという地質学者は、清里の近くの海岸寺峠に立ったとき、フォッサマグナ（大地溝帯）のイメージを得たと書いています。わたくしはその地を訪れ、「なるほどこれが大地溝帯か」と感動しました。その場所は南アルプスと八ヶ岳の景色がみえるすばらしい場所でした。こういう場所にくれば雄大な構想がわくはずだ。私もこんなところに住みたいものだ、と思っていました。竹早高校に八ヶ岳寮があることを知ったとき、「こりゃあすごい、竹早高校の卒業生はこんないい思いをしていたのか」とおもいました。なんと1万坪の敷地があり森の中に50人近く泊まれる施設もあるのです。これだけの施設を利用できる高校は、一握りしかありません。

この学校の生徒は本当に恵まれていると思いました。昨年はクラスの連中、保護者の方、天文、写真クラブ員と一緒に5回か6回訪れました。前の学校の卒業者を連れて行ったら「同じ都立高校なのに不公平だよな」といわれました。そのとおりこんな立派な施設を使わない手はありません。卒業したあとも、同窓会、OB会など使っている人もいるようです。あまり宣伝すると私が行く余地がなくなるかもしれませんが・・・。

今はザゼンソウも終わり、木々が一斉に芽吹いています。家族のかたでも大丈夫。森の中でゆっくりあそびましょう。

（元竹早高校地学教諭　グリーン・ギャラリー no.20より）

2006年　竹早山荘の主なイベント（ご参加をお待ちします）

■公募ワークショップ：森の手入れ「ヘイヘイ・ホー」♪♪♪

「山荘の森をきれいにしよう」との掛け声で、2002年から始まった有志による森林ボランティア活動を一般公募。

参加費：6,000円。

※春のヘイヘイ・ホー　5月13日（土）14日（日）

※秋のヘイヘイ・ホー　10月14日（土）15日（日）

■リフレッシュツアー

新宿からバスで竹早山荘へ1泊2日のミニツアー、ゆったりした時間、体にやさしい食事。高原のオゾンを体にいっぱい吸い込んで心も体もリフレッシュしましょう。

※参加費：16,000円、温泉入湯つき。

①ツツジの花咲く6月2日～3日

②マツムシソウの咲く9月2日～3日

③山の紅葉をめでる11月2日～3日（いずれも割引延泊可）

■山荘内「清里済々窯」の窯焚きと作陶会

共同で穴窯を焚きます。興味のある方ご連絡下さい。

※作陶会：5月27日～31日　初心者指導いたします

6月29日～7月3日

※窯焚き：10月25日～29日（搬入20日。窯だし11月11日）

■子どもの自立を助ける「自然のなかの生活体験キャンプ」

竹早山荘の自然の中で五感を働かせ、体を動かし、心を遊ばせる1週間。（仕事を持つ保護者に代わってお子様のお世話をします）

参加費：6日間 48,000円。　対象：小学4年生から中学2年生。

※手紙を書く、森の観察、自分で食事を作ってみる、星の観察、火を起こす、造形、ロープワーク、ハイキング、絵を描く、など。

※期日 ①8月4日～10日 ②8月10日～16日 ③8月16日～22日

竹早山荘は左記のイベントやワークショップだけでなく、皆様が自由に使えるレンタルスペースとしてご活用いただけます。

今年から竹早会主催のイベント・合宿以外は朝食つき宿泊を基本とし一般3,500円、子供2,000円といたします。食事は別に考えます。アウトドアクッキングを楽しむ、持ち寄りパーティ・あるいは清里の名店での外食もよしといろいろなパターンが考えられ　料金的にも多彩になります。詳しくはご利用の前に事務局にお問い合わせください。ご予算、プランの相談に応じます。

50,000円＋(1,000円×人数)で山荘全館貸し切りが出来ます。

楽しい企画を立ててご利用ください。

■賛助会員加入のお願い

竹早山荘は、同窓生の交流の場であり、リフレッシュできる空間ですが、あわせて青少年の健全育成の公益目的のために活用されています。

山荘の維持運営をサポートしてくださる仲間を募っております。

是非 メンバーズ（賛助会員）になってご支援ください。

賛助会費は一口3,000円以上/年（4月から翌年3月まで）です。

メンバーにはイベントのご案内と宿泊ご優待などの特典があります。

お問い合わせは

●竹早会事務局　〒112-0011　文京区千石2-34-1
Tel：03-3943-2415　Fax：03-3941-5872
E-mail：takehayakai@forest.ocn.ne.jp

●竹早山荘（現地）　〒407-0301　山梨県北杜市高根町清里学校寮区
Tel：0551-48-2032　Fax：0551-48-3654

●竹早山荘のホームページ
http://www32.ocn.ne.jp/~takehayakai/

平成17年度「篁会総会・懇親会」報告

平成17年度の総会及びそれに続く懇親会は、快晴に恵まれた6月12日、芝増上寺隣りの東京プリンスホテル2階プロビデンスホールにおいて、多くの同窓生に支えられ盛大にとり行われました。出席者は来賓3名及び高女26から高校57回生までの会員189名の総勢192名で、同期で多数出席されたのは高校14回生が15名、15回生61名、16回生14名、そしてパワー溢れる新会員の57回生は18名でした。

総会は星野昌子会長挨拶の後、理事会報告、16年度事業報告・会計報告及び監査報告、17年度事業計画案及び予算案、新会長選任及び承認、等の議事が滞りなく進められました。

総会の後は、この年の幹事学年である高校15回生・松尾葦江さん(國学院大学教授)による「まだ平家物語やってるの?」と題する講演が行われ、聴講者一同久しぶりにアカデミックなひとときを共有しました。

続く懇親会は、12時10分より同じくプロビデンスホールにおいて、甲田校長先生の来賓挨拶に始まり、城戸崎元会長の挨拶、磯貝恵三新会長の音頭による乾杯の後、しばらくの間飲みかつ食べながらの賑やかな歓談の時間を楽しみました。なおこの歓談をはさんで、長寿会員及び新入会員の紹介があり、また16号会報のテーマである「竹早今昔物語」にちなみ往時と現代の愛唱歌(「青い山脈」「翼を下さい」)を全員で合唱したり、さらに出席者全員の中から抽選で「都電の恋もあったで賞」としてパスネットが、「早弁は得意だったで賞」としてホテル食事券が、「修学旅行、今は新幹線で賞か?」として豪華旅行券などが当たるという、賞のネーミングとその賞品の組み合わせに工夫を凝らし、各当選者からはコメントをいただく「お楽しみタイム」もあって大いに盛り上がったのち、恒例の校歌斉唱へと進行し、和気あいあいの内に閉会となりました。

平成17年度「篁会総会」決算報告

(単位　円)

■収入		■支出	
会　費(170名)	1,336,000	会　場　費	1,311,750
祝　金	30,000	講師謝礼	100,000
篁会より補助	300,000	プログラム印刷代	29,925
		通　信　費	37,858
		そ　の　他	186,467
合　計	1,666,000	合　計	1,666,000

『まだ平家物語やってるの?』

ー松尾　葦江さん講演要旨ー

「ひとがひとであるためには、こころざしが必要だと考えています。他人から褒められたり、世間に認められたりすることとは別に。しかし志だけでは駄目で、それを実現させるためにはわざが必要です。切れ味のいいわざを身につけるのは、面白おかしい毎日ではありませんが、案外これがたのしいのです。文学(科学としての)は、職人芸です。こころざしを見失わず、わざをみがきたいと思います。…」

國学院大学のホームページに掲載されている松尾さんのメッセージの中の「職人芸」のお話は、まず配られたプリントの「見方」からはじまりました。「まだ平家物語やってるの?」――こだわりのライフワーク平家物語研究の面白さ――は、読み物としての解説ではなく、私たちが、高校時代にはじめて学んだあの平家物語は、どのような歴史を持ち、どのような作業工程(これが「わざ」なのでしょうか?)を経て紐解かれ出来上がってきたものなのか?がテーマで、古典などとはかけ離れた日常生活の中で、まるで学校の授業を受けているような新鮮な気持ちで耳を傾けた一時間でした。

平家物語に限らず、古文書を今あるかたち、読めるかたちに直すことを「翻刻する」ということなど、文学の研究をなさっていらっしゃる方々にとっては常用の言葉かもしれませんが、私ははじめて知った言葉でした。この「翻刻する」ということは、まずもとになる「古典」の内容を充分理解したうえで濁点、句読点、振り仮名、括弧を付け「読める」文章にしてゆく…まさに「わざ」を必要とする作業なのだということもよくわかりました。この、中世に書かれた「平家物語」が、盲目の琵琶法師や検校の「語り」によって、文字を解する知識層だけでなく、広く民間にも伝承され、またその「語り」が新たに加筆修正され「読み物」となり、また語られ…と、その繰り返しの上に出来上がってきたそうです。このことが、平家物語が他の古典文学と大きく違うところでもあるようです。

現在「翻刻」のわざを持っている平家物語の研究者は、大勢いらっしゃるようですが、平家琵琶を弾き語れる検校が殆どいらっしゃらないということは、平家物語は鎮魂の文学であることと考えるととても残念に思いました。「写本」「読み」「語り」という何百年も営々と続いてきた伝承のかたちを「未来へつなげる」役目を、「たのしい」「面白い」と語られる松尾さん。数百年後の国文学者が松尾さんの手による平家物語を「翻刻(注釈)」しているかもしれません。

松尾さんは最後に次のように締めくくられました。

人間はいつの世も運命の前には勝てない。もろく、くいつぶされていく。そんなぎりぎりの中で死んでゆくもののそばには、必ず誰かがいる。慈しみを受けたもの、あるいは身分を引き立てられたものなど、必ず誰かがそばにいてその最後に立ち会っている。その思いが、私たちを平家物語に惹きつける理由ではないだろうか――と。

松尾さんは篁会の若い方たちから見たら、高い目標(志)を持って文学研究という職人芸に突き進んでいる偉大な先輩であり、また先輩諸兄姉にとっては自分たちにも今からでも遅くない「技を磨こう!」というパワーを与えてくれる頼もしい後輩であります。「これからも平家物語研究を続けます」と力強く語った松尾さんにあらためて感謝と大きな拍手を送りたいと思います。

(15回生編集委員)

理事会報告

平成17年度は以下の通り理事会を開催した。

●3月22日
- ＊ 会長選考委員会設置
  星野会長再任辞退に伴い、次期会長候補を決定する委員会を発足
- ＊ 16年決算、17年予算案審議、修正後メール等による回議にて承認。

●4月26日　出席者18名　委任状3名（理事総数25名）
- ＊ 新会長候補として磯貝氏（7回）の紹介
- ＊ 会報発送作業（4/23）の総括報告

●5月17日　出席者16名　委任状5名（理事総数25名）
- ＊ 新会長候補として磯貝氏が全員一致で推薦される。
- ＊ 個人情報管理の徹底を図るため名簿委員会（委員長遠藤理事）の充実を決定

●7月13日　出席者17名　委任状4名（理事総数25名）
- ＊ 新理事の選任：野川淑子氏（18回）就任
- ＊ 理事会役員の選任：
  副会長：遠藤氏、村上氏　　総務：福島氏　　会計：遠藤氏
- ＊ 篁会総会の総括と収支報告承認
  参加者数192名　費用予算内に納まり　盛会に終了。
- ＊ 篁会活動は　理事会3部会、4委員会を核にフリーな議論を中心に行う事を確認

●9月28日　出席者20名　委任状6名　理事総数26名
（新旧会長と理事の会費制歓送迎会を兼ね　法曹会館にて実施）
- ＊ 新理事の選任：柏木洋子氏（12回）就任
- ＊ 退任理事：黒瀬忠生氏（11回）、荻隆之助氏（12回）、河村恵子氏（12回）
- ＊ 理事の役割分担と各委員長の決定
  企画部担当：豊岡理事　　広報部担当：板東理事
  総会担当学年：池内理事
  会報委員長：土田理事　　名簿委員長：遠藤理事
  HP委員長：小林理事
- ＊ 18年総会の日程、会場の提案承認：
  6月11日　京王プラザホテル　講演会は実施せず懇親会重視で盛り上げる事了承
- ＊ 竹早高校行事（前期終業式、竹早祭）への参加報告

●12月1日　出席者19名　委任状3名（理事総数23名）
- ＊ 理事の辞任：川島己代理事（15回）
- ＊ 預金の名義変更及び会計処理基準の明確化と確認。
- ＊ 学校での事務委託（郵便物処理等）は来年度より廃止し　理事が交代で行う。
- ＊ HPの現状報告と活性化案検討
- ＊ 関西篁会総会（10月）への会長出席報告

●1月28日　篁会新年懇親会（会費制）実施
- ＊ 理事以外に監査、顧問、各委員会委員、学校関係者、PTA会長等篁会活動に関係する有志参加により新年懇親会実施
- ＊ PTA会長も含め19名参加。

篁会平成17年度収支報告

2006/3/31

平成17年4月1日より平成18年3月31日まで

収入の部

科　目	金　額
前年度繰越金	13,712,671
入会金：新入会員232人	1,856,000
年会費	2,237,000
総会会費	1,366,000
出版物販売代金	48,000
雑収入	12,620
受取利息	1,772
小　計	19,234,063
百周年事業基金	5,540,090
合　計	24,774,153

支出の部

科　目	金　額
総会開催関係費	1,666,000
贈呈記念品費	392,927
会報発行費	2,284,385
会議費	63,552
通信費	21,300
旅費交通費	27,070
事務用品、消耗品代	5,775
教育援助金	100,000
慶弔費	54,345
事務委託費	7,000
HP立ち上げ経費	6,300
諸事業経費	0
会費入金払出手数料	155,780
予備費	0
小　計	4,784,434
次年度繰越金	14,449,629
百周年事業基金	5,540,090
合　計	24,774,153

次年度繰越金内訳

郵便貯金	通常貯金	154,131
	定額貯金	7,269,774
	振替口座	7,000,000
銀行預金	みずほ銀行本郷支店（百周年事業基金）	15,620
仮払金		5.550,194
合　計		19,989,719

篁会平成18年度収支予算（案）

平成18年4月1日より平成19年3月31日まで

収入の部

科　目	金　額
前年度繰越金	14,449,629
入会金：新入会員249人	1,860,000
年会費	2,200,000
総会会費	1,600,000
出版物販売代金	50,000
諸事業収入	0
受取利息	1,000
小　計	20,160,629
百周年事業基金	5,540,090
合　計	25,700,719

支出の部

科　目	金　額
総会開催関係費	1,900,000
贈呈記念品費	400,000
会報発行費	2,300,000
会議費	200,000
通信費	20,000
旅費交通費	60,000
事務用品、消耗品代	4,000
教育援助金	100,000
慶弔費	50,000
HP立ち上げ経費	50,000
諸事業経費	200,000
会費入金払出手数料	180,000
予備費	200,000
小計	5,664,000
次年度繰越金	14,496,629
百周年事業基金	5,540,090
合計	25,700,719

平成17年度篁会理事名簿

会　長	磯貝　恵三（高校7回生）	
副会長	遠藤　きみ（高校13回生）	
	村上　伸一（高校14回生）	
顧　問	星野　昌子（高校2回生）	
	犬伏　慶子（高校10回生）	
	柏木　洋子（高校12回生）	
	板東　尚武（高校13回生）	
	福島　成二（高校14回生）	
	豊岡　貞之（高校15回生）	
	土田　善則（高校15回生）	
	池内　和彦（高校16回生）	
	甲神　　嵒（高校16回生）	
	金澤　俊男（高校16回生）	
	坂原冨美代（高校17回生）	
	永長　隆徳（高校17回生）	
	大高　恵子（高校17回生）	
	藤島　磁郎（高校17回生）	
	野川　淑子（高校18回生）	
	吉岡　　新（高校21回生）	
	小林　　稔（高校23回生）	
	中村　光宏（高校23回生）	
	細田　裕美（高校28回生）	
	平川　　悟（高校52回生）	

お知らせ

●年会費納入のお願い

毎年1回すべての会員に配布されているこの会報は皆様の会費で賄われています。これからもさらに充実した会報を発行し、篁会会員相互の親睦、交流を図るため、年会費の納入にご協力くださいますようよろしくお願い致します。
18年度会費　1、000円は同封の郵便振込用紙をご利用ください。

●ご意見・ご希望は

会報は同窓生みんなのものです。本誌へのご意見・ご希望を同封のハガキ（総会出欠用）でお寄せ下さい。
また、住所等が変わられた方は下記までお知らせください。

東京都立竹早高校内「篁会・名簿委員会」
〒112-0002　文京区小石川4-2-1

編　集　後　記

今号は特集が2本立てになりました。同窓生の活躍に力と希望をいただき、会報片手に高校あたりを散策してみては如何でしょうか。

編集にかかわり、横のつながりだけでなく、縦のつながりの大切さ、有難さを痛感しています。篁会の絆がますます広く、深くなることを願って、同窓会開催、会報編集とやってきました。少しでもそのお役に立てたのなら嬉しいです。

ご執筆、ご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。今後も「会報」誌面の充実のために皆様の投稿をお待ちしています。

（会報委員長　土田　善則）

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

旧職員

佐藤　浩子	国語	H17.3
国廣　　功	国語	H17.7
佐藤　正博	教頭	H17

高女

大13卒	(24回生)		緑川　きみ（比田）	H16.12
大13卒	(24回生)		吉沢　福子（西）	H14・9
大14卒	(25回生)		高木　桂子（吉田）	H17.1
大14卒	(25回生)		吉田　慶子（平木）	H17.3
大15卒	(26回生)	甲	宇野　桂	H17.6
大15卒	(26回生)	甲	芝　光子（土方）	H17
大15卒	(26回生)	甲	富澤　智子（佐藤）	H3
大15卒	(26回生)	乙	屋沢　あや（池田）	H7.7
昭4卒	(29回生)	乙	吉川　菊子（大野）	H16.11
昭5卒	(30回生)	甲	花野　正代（原）	H16.8
昭5卒	(30回生)	甲	檜貝　まさ（滋賀）	H16.6
昭5卒	(30回生)	乙	堤　カヨ（長岡）	H17.1
昭6卒	(31回生)	甲	稲垣　久子（大津）	H17.4
昭7卒	(32回生)	甲	大島　欣子（高岡）	H15.8
昭7卒	(32回生)	乙	藪内　愛子（小金井）	H16
昭8卒	(33回生)	甲	小野寺嘉代子（加藤）	H17.3
昭8卒	(33回生)	甲	長尾　清子（藤井）	H15.5
昭8卒	(33回生)	乙	有川　文子（秦）	H12.5
昭9卒	(34回生)	甲	石塚　暢代（石川）	H16.11
昭9卒	(34回生)	甲	満田　春子（馬場）	H16.6
昭10卒	(35回生)	紅	今井　貞子（牛尾）	H16.11
昭10卒	(35回生)	紅	山形　トシ	H16.3
昭10卒	(35回生)	白	松本　巳代子（磐瀬）	H16.4
昭11卒	(36回生)	紅	吉田　雅子（越智）	H17.6
昭11卒	(36回生)	白	鈴木　寿美江（安藤）	H17.10
昭11卒	(36回生)	白	福田　久子（小杉）	H16.4
昭11卒	(36回生)	白	小早川勝子（溝手）	H17.2
昭11卒	(36回生)	白	石渡　栄子（前田）	H17.2
昭11卒	(36回生)	白	巌崎　有里	H16.6
昭12卒	(37回生)	白	大圃　淑子（入交）	H16.5
昭14卒	(39回生)	白	山枡　恒子（四手井）	H16.5
昭15卒	(40回生)	紅	宇佐　豊子	H17.4
昭16卒	(41回生)		菊池　静子（小川）	H16.11
昭16卒	(41回生)		向坊　信子（水田）	H17.4
昭19卒	(44回生)		沢田　礼子（吉田）	H15.12
昭21・22卒	(47回生)		宇田　芳枝（佐藤）	H17.6

専攻科

昭19卒	(1回生)		大野　澄子（林）	

竹早高校

昭25卒	(2回生)		増田　安子（佐藤）	H17.9
昭27卒	(4回生)		角田　とく子（松本）	H17.3
昭31卒	(8回生)	A	友部　弘邉（平津）	H16.4
昭31卒	(8回生)	A	須藤　彰久	H14
昭31卒	(8回生)	C	柴田　悦子	H15
昭32卒	(9回生)	C	斉藤　芳子	H17.7
昭35卒	(12回生)	C	大竹　紘子（蓮村）	H17.2
昭36卒	(13回生)	F	小泉　博	H17.5
昭37卒	(14回生)	B	柳澤　正	H17.5
昭38卒	(15回生)	B	金井　健志	H18.1
昭38卒	(15回生)	F	鈴木　一嘉	H17.3
昭39卒	(16回生)	B	千葉　肇	H16.1
昭39卒	(16回生)	E	佐藤　保子	H17.5
昭39卒	(16回生)	E	苗　玉晏	H14.3
昭40卒	(17回生)	E	原田　みち（三田）	H16.12
昭45卒	(22回生)	D	渡辺　光子	H17.4
昭61卒	(38回生)	D	武藤　高行	H9.8

＊平成18年2月28日までにご連絡いただいたものです。